



平成24年2月18日
 柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内
 電話：044-988-0004 (柿生中学校)
 第45号

日露戦争と柿生の戦死者

NHK『坂の上の雲』上映
 柿生の出征者たちは？

日露戦争といいますがずいぶん昔の出来事のように、現在でもこの戦争の名残りとなっているものがあります。皆さんよくご存じの胃腸薬の『正露丸(せいろうがん)』は、日露戦争当時は『征露丸』と書かれていました。きっとロシアを征伐するという意味だったのでしょう。

この戦争はロシアの南下政策による満州・朝鮮半島への侵出に対してそれを阻止しようとした日本との戦争であったわけです。

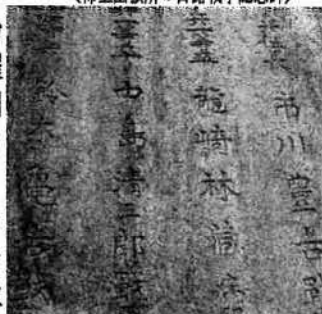
明治37年(1904年)2月に始まった戦争は、日本の出兵兵士約108万人(ロシア129万人)、死者8万4千人(ロシア5万人)、負傷者数14万3千人(ロシア20数万人)、戦費17億1644万円(ロシア約20億円)と膨大な犠牲を払った戦争でした。

柿生からは96名の方が出征し、4名が戦死、2名が病死しています。柿生にある区役所出張所の敷地内に陸軍大将「乃木希典(のぎまねかみ)」の筆になる記念碑が建てられています。

下の新聞は明治37年11月5日付けの『貿易新報(後に横浜貿易新報に改名)』です。ここに、上麻生の鈴木亀吉さんの戦死についての記事が掲載されています。内容は陸軍砲兵の鈴木さんは、明治37年4月15日に出征し中国遼東半島金州南山の激戦で活躍し上等兵に昇進しましたが7月24日の大石橋の大激戦で奮闘中両脚頸部に敵弾を受け野戦病院で加療中7月27日亡くなりました。



(柿生出張所の日露戦争記念碑)



(記念碑裏に刻まれている戦死者名)

氏は12才の頃から父を助け農業に励み高額の納税ができるほどに家を興し性格は温厚で品行方正、礼儀正しく読書を好み、柿生村の人々から大きな信頼を寄せられました。

●戦死者鈴木上等兵
 上等兵鈴木亀吉氏(三十三)は三十五年兵にして本年四月十五日出征し金州南山得利寺の激戦で大激戦に奮闘中不幸にして両脚頸部に敵弾を受け李家屯野戦病院に於て加療中同月廿七日遂に死亡せり氏の家族は父平吉(七十七)伯父大蔵(六十二)にして氏が幼時は家食にして最も困難の間に成長したるが十二歳の頃より父に劣らざる力量ありて父を助け能く農業に勉勵したる爲め目下は三圓以上の納税をなし土蔵を新築し納税額に比すれば最も裕福なる生活となりたるも皆氏が父を助けて職業を営みたる結果なりと氏は性質温和にして品行正しく餘暇には讀書を好み大に村内の信用ありしと云ふ



(日露戦争激戦地)

(明治37年11月5日の「貿易新報」)

地名の謎を探る

谷(ヤト・ヤチ・ヤツ)・谷戸(ヤト)地名を考える

—— 麻生区に多い「谷」地名 ——

第43、44号では「籠場(ローバ)」地名について考えてみました。この「ロー」地名の多くが谷戸地(やとに谷)であるということ指摘しました。今回は「谷」「谷戸」の地名の謎について考えてみたいと思います。

多摩丘陵は大変「谷(ヤト)」の多い地形をしています。麻生区内の地名を調べてみますと約147の「谷(ヤト)」地名があります。今回は、「谷」をなぜ「ヤト」と読むのかということから考えてみたいと思います。

漢和辞典の『漢語林』によると「谷」は本来、左右にせまる谷の象形(もの形)の「欠」に「口」を入れ『谷の口』という意味でした。音読み(中国読み)は「コク」、訓読み(日本読み)は「タニ」、字義(文字の意味)として「ヤ(谷)」と記述されています。

「ヤ」「ヤト」の使い方は単なる「谷(タニ)」ではなく方言的なものか、別の意味をもっていた可能性があり、主に東日本で多く使用されています。

使い方は「ヤト」「ヤツ」「ヤチ」などで川崎などでは断然「ヤト」が多く、鎌倉などでは「扇ヶ谷(オキガヤツ)」「比企ヶ谷(ヒキガヤツ)」などの「ヤツ」が多く千葉県、茨城県にもたくさん分布しています。

「ヤチ」は群馬県、栃木県、新潟県に多く分布しています。ただ、新潟県の場合は丘陵地帯ではなく沖積平地(川から流されてきた土が積もってきた平地)の中にある平らな湿地を指します。例えば「谷地田(ヤチタ)」「谷内田(ヤチタ)」「葦ヤチ(ヨシヤチ葦の生えた湿地)」などの使われ方がされ、群馬県でも「ヤチ」地名の半数弱が利根川流域の低湿地帯になっています。

(昔の姿を残す早野「梅ヶ谷」) アイヌ語との関係について調べてみますと、左図のよういづれも湿地と関連のある意味をもっているようです。昔、日本全国に蝦夷(エ)と呼ばれるアイヌ系の人々が居住していましたからうなずけることです。(特に東日本には多い)

	日本でよく使われる地形	アイヌ語
ヤ	湿地・沢・沼地	土地・陸地
チ	土・道など場所を示す	水溜まり
ト	出入口・狭くなった場所	沼・湖
ヤト	低湿地	
ヤツ	低湿地	
ヤチ	低湿地	沼沢

一方、「常陸風土記」に土地を開墾しようとしたところたくさんの『夜刀神(やとのかみ・やつのかみ)』(ヘビのことと思われる)が現われて邪魔をしたので『箭括氏麻多智(やはずちのまたち)』が退治したという話ののっています。この『夜刀神』はまさに『ヤト(谷)の神』のことで湿地帯に住むヘビを指しているのでしょう。おもしろいことに退治した『麻多智(マチ)』もヘビに関係があり、「チ」は「オロチ(大蛇)」の意味を持ちます。大昔は『湿地』と『蛇』の深い関係も考えられていたようです。

(参考資料:「アイヌ語辞典」「日本神話の研究」「日本古典文学大系2風土記」)



(緑地保全地の王禅寺「源左門谷」)



(昔の姿を残す早野「梅ヶ谷」)

柿生・岡上歳時記 [1月]

- 元日** ・年男(新年の祝い事を行なう男性、一般的に家の長老や長男が行なう)と呼ばれる男の人が朝早く井戸に「若水(わかみず)一年のいちばん最初の水で邪気を払うという」を汲みにいき神棚や仏壇にあげます。
 ・年男は神棚、仏壇に灯明をつけ、お神酒や雑煮を供え、家族全員でお詣りをしてから家族全員で雑煮(雑煮作りも年男の仕事です)を食べ正月を祝います。
 ・初詣(はつもうで) ※12月31日深夜から元日早朝にかけて寺社へ行きお詣りすることを二年詣りといひ、その場合もあります。
 ・親類同士の新年の挨拶は「おせち」といって家ごとに日を決めてお互いに行き来しました。
- 7日** ・七草(ななくさ) 芹(せり)、薺(なずな)、御形(ごぎょう)、はこべ、仏の座、菘(すな)、すずしろ の七草をお粥に入れて、神仏に供えてから食べますが、七種類揃わない場合は、人参・ゴボウ・大根・里芋・小松菜を入れ、他に餅も入ります。
- 14日** ・**どんど焼き(セイノカミ)** 12月8日に一つ目の妖怪「メカリバアサン」が家々をまわって子供の名前を帳面に記入していきます。帳面に名前を書かれた子供はやがて伝染病にかかって死んでしまうそうです。
 メカリバアサンはその帳面を村の道祖神(村人を守ってくれる神様)に預け2月8日にまた取りにくるぞと言いつ残し去っていきます。困った道祖神は1月14日に自分の家に似た建物を造りそれを燃してしまいます。それがドンド焼きのいわれです。(柿生・岡上では、この時期、各地でドンド焼きが行なわれます)
 やがて2月8日に戻ってきたメカリバアサンが帳面を返してくれと言うと道祖神は「自分の家と一緒に帳面も燃えてしまった」と答え、メカリバアサンは悔しそうに帰っていったそうです。そのおかげで村の子供たちの命が助かったそうですそんな伝説のある行事です。
- 28日** ・**ダルマ市** 下麻生の「お不動様」は昔から火の災難から守ってくれる「火ぶせの不動」と言われてきました。ダルマ市が出るようになったのは明治時代終わりの頃でした。「火伏せ」の銭はご利益があるそうです。

大学入試センター試験にも出た！
 郷土史料館展示史料

1月14日から始まった大学入試センター試験「日本史B」の出題の中に柿生郷土史料館に展示されているものと同じ資料が問題として出されていました。

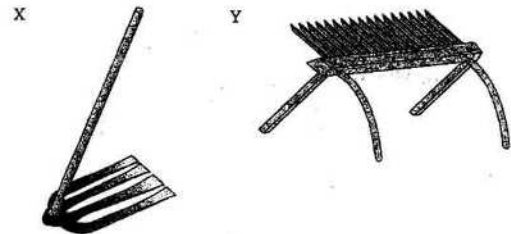
それは、特別企画展で展示されている「備中鍬」「千歯こき」です。いずれも江戸時代中頃に普及したもので、その用途について問う問題でした。

また、常設展示のなかにある「農業全書」(宮坂貞著)についてもその内容について問う問題が出されていました。

受験生諸君、柿生郷土史料館を見学するときといいことがあります。

来年は何が出るのでしょうか？

問2 下線部②に関連して、江戸時代に普及した次の農具X・Yと、それについて説明した下の文a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 [20]



- a 牛にひかせて土を掘り起こす犁
 b 深耕に適した鍬
 c 能率的な脱穀用具
 d 穀粒の選別用具

- ① X-a Y-c
 ② X-a Y-d
 ③ X-b Y-c
 ④ X-b Y-d

絶品！柿生米で作った七草粥に舌鼓(したぶみ)



最近、各家庭ではあまりやらなくなった七草粥を郷土の米と野菜を使って伝統の七草粥を作ってみるようになりました。

昨年11月に地域や柿生中学校生徒の皆さんに手伝ってもらって脱穀した柿生米を精米して、1月8日に部活動生徒を招待して七草粥試食会を開催しました。

柿生の七草粥は七草以外にゴボウ・里芋・人参・餅などが入っていて結構ボリュームがありました。

支援委員に伺ってみたところ、七草粥は、各家庭によって作り方や具の種類は色々あるそうですが、里芋や餅などが入るのは昔からこの地域で食べられていたそうです。

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前10時
閉館：午後 3時

2月4日(土) 特別展解説14:00

2月11日(土) 特別展解説11:00

2月18日(土) 特別展解説14:00

2月25日(土) 特別展解説11:00(セミ)

3月4日(日) 特別展解説14:00

3月11日(日) 特別展解説11:00

3月18日(日) 特別展解説14:00

3月25日(日) 特別展解説11:00(セミ)

開・偶数月は土曜日
館・奇数月は日曜日

柿生郷土史料館の2・3月の催物

(特別企画展)

※ 問い合わせ 988-0004 (柿生中校)

第4回 特別企画展

「郷土の古民具と
信仰展」

(期間) 3月25日まで

第5回 特別企画展

「写真でたどる柿生・岡上
百年の歩み展」

(期間) 4月(21日より)～7月(22日まで)

(各種セミナー)

第32回 カルチャーセミナー

□テーマ

「思い出のふるさと こどもの遊び」

史料館支援委員と地域の方々によるパネルディスカッション

□期日

2月25日(土) 午後2時より

□内容

昔懐かしい子供の頃の遊びについて語り、現代人が忘れてしまった「何か」について考えます。

第33回 カルチャーセミナー

●テーマ

「杉山神社と鶴見川文化」

●講師

松本良樹氏 (麻生観光協会ガイド)

●期日

3月25日(日) 午後2時～ ●会場 柿生郷土史料館

●内容

杉山神社が語る鶴見川流域文化の原点を探る。

